

## 学習や生活に関する改善プラン

※本改善プランは、岡山市教育委員会の統一した様式です。

本校は、全国学力・学習状況調査結果をもとに授業等の改善を行うため、「学習や生活に関する改善プラン」を作成しました。本校の状況を知っていただいた上で、子どもたちの学習や生活習慣の改善に向けて支援していただければありがたいと思います。

なお、さらに詳細な結果について、調査対象の学年に配付することとしています。

### 【全国学力・学習状況調査結果の概要】

#### 成果

令和3年度実施の全国学力・学習状況調査（以下「全国学調」）の国語、数学いずれにおいても全国を上回る正答率でした。国語では「話合いの話題や方向性を捉えて、話す内容を考える」や「相手や場に応じて敬語を適切に使う」という設問で、全国平均を大きく上回りました。これは、言語に関する知識・理解・技能が定着することで、話す・聞く・読む力が向上した成果と考えられます。数学では「与えられたデータから中央値を求めることができる」「錯角が等しくなるための、2直線の位置関係を理解している」という設問で全国平均を大きく上回りました。2年次の習熟度別授業で数学的技能や数量や図形についての知識・理解が定着した成果と考えられます。

「自分にはよいところがある」と考える生徒が81.2%おり、自己肯定感が高いことが分かります。スマイルカードで小さな善行を披露するなどの成果であると考えます。また、「一日30分以上読書をする」生徒も、全国よりも大幅に多くいます。これは朝読書の習慣が定着している成果であると考えます。さらに「家で、自分で計画を立てて勉強している」に対して、肯定的に回答している生徒は1、2年次50%、3年次62%と学年に応じて増加し、定期考査ごとの学習計画や学習時間と成績の相関分析を毎回行った成果であり、学習習慣が定着できているところが評価できます。

#### 課題と対応

国語では「文脈に即して漢字を正しく読む」という設問で、全国平均を正答率が若干下回り、漢字を読む力に課題があることが見られます。また、記述式問題の正答率が低いところも課題と言えます。漢字の意味や成り立ちなど意味付けをしながら、語彙力を定着させることと、タブレット端末などを使って、書くことへの興味や意欲を刺激し、書く機会を増やす工夫をしていきたいと考えています。数学では記述式の問題の正答率の低さや無解答率が高いところが課題です。数学への意欲や学習方法は確立しているので、数学的事象と実生活とを関連付けて考える課題を与えるなど、対話的な学びや表現活動を取り入れた授業を行い、さらに適切な評価をすることで自信へとつながるように授業を改善していきます。

「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じ時刻に寝て（起きて）いますか」など生活習慣が乱れてきている生徒が全国よりも多い特徴が見られます。また、「人が困っているときは、進んで助けていますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に対して肯定的な回答が全国より少なく、規範意識や自己有用感、奉仕の精神などが低いことに課題があります。コロナ禍のため、集団活動する行事やグループ学習に制限が多くなり、みんなで協力して活動する機会が少なくなったことも大きな要因と考えます。今後、達成感や協働意識をもつことができるように学年行事や学習活動を工夫していきます。

### 【保護者・学区の方へのお願い】

全国学調の結果から、携帯電話やスマートフォン等の利用時間が長くなり、寝る時間・起きる時間に影響し、その結果朝食を食べられないなど、生活の乱れてきている生徒がいることが分かります。また、このことは学習時間の減少へもつながります。メディアコントロールを中学校区全体で取り組んでいるので、今後も続けていくとともに、保護者の皆様にも、家庭でのルールやマナーをよく話し合い、よりよい生活習慣を確立できますようご協力お願いいたします。

今後も新型コロナウイルス感染症の対策をしながらの生活は続くと考えられます。夢や目標をもつことが難しく感じられる状況ですが、今学んでいることを、どう自分の未来や世の中に役立てていくかを考えることは必要と考えます。保護者・学区の皆様は生徒にとって最も身近な「自分の未来像」です。ご家庭でも将来の話や保護者の皆様の子どもの頃の話をしていただけると具体的な想像ができると思います。どうぞよろしくお願いいたします。

## 令和3年度学習や生活に関する改善プラン（岡山市学力アセス）

※本改善プランは、岡山市教育委員会の統一した様式です

本校は、岡山市学力アセスの調査結果をもとに授業等の改善を行うため、「学習や生活に関する改善プラン」を作成しました。本校の状況を知っていただいた上で、子どもたちの学習や生活習慣の改善に向けて支援していただければありがたいと思います。

【岡山市学力アセスの調査結果から】

## 成果

教科・質問紙		成果
第1学年	国語	文脈に即して漢字を正しく読むことができる。
	社会	聖武天皇のはたらきについて理解している。
	数学	円柱や四角柱の展開図について理解している。
	理科	血液を送り出す臓器を理解している。
	英語	単語の意味を理解している。
	学習状況	前の学年までに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思っている。
第2学年	国語	場面の展開や登場人物などの描写から心情を捉えることができる。
	社会	ヨーロッパ州の共通通貨や地域統合について理解している。
	数学	正の数・負の数の減法・乗法・除法などの計算ができる。
	理科	身近な生物のつくりを比較し、分類することができる。
	英語	英文を聞いて、聞こえた順に絵を並び替えることができる。
	学習状況	生徒間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできていると思っている。

## 課題とその対応

教科・質問紙		課題	対応
第1学年	国語	文脈に即して漢字を書いたり、漢字を正しい筆順で書いたりすることに課題がある。	国語は、言葉の特徴や使い方に関する知識の定着を図るために、繰り返し漢字を書いて覚えるだけでなく、部首や筆順、漢字の成り立ちなど意味付けをしながら学習を進めさせたい。数学は、基本的な計算力や知識は身に付いているが、解答形式が記述になると、正答率が下がり、無解答率が上がる傾向がある。数学的な見方・考え方を働かせるような、表現活動を取り入れたり、対話をしながら考えを深めたりする授業展開をしていきたい。これにより、無解答率を減らしたい。社会や理科では、身近な社会的事象や科学的事象を授業内容と関連付けて取り入れ、対話をしながら思考させたり、表現させたりすることで、知識の活用力を向上させたい。英語の聞く・書く・話す・読むの4技能の向上のためにも語彙力と短作文力を向上させるような工夫を授業に取り入れていくように考えたい。家庭学習時間を1時間以上とり、計画的に学習を進めている良い点を維持させていきたい。また、学習への意欲向上のためにICTの活用を授業で取り入れ、学びを深める楽しさを実感させるようにしていきたい。
	社会	輸入など外国との関わりについて、資料から読み取って考え表現することに課題がある。	
	数学	資料から時刻を読み取ることができるが、それを用いて速さを求めることに課題がある。	
	理科	身のまわりで使われている電磁石の性質を説明することに課題がある。	
	英語	英文を聞いて単語を並び替え文章を思考することに課題がある。	
	学習状況	授業でもっとコンピュータなどのICT機器を利用したいと考えているが、ICT機器利用が少ないことに課題がある。	
第2学年	国語	文脈に即して漢字を書いたり、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して書いたりすることに課題がある。	国語は、言葉の特徴や使い方に関する知識の定着を図るために、繰り返し漢字を書いて覚えるだけでなく、歴史的仮名遣いと現代仮名遣いの関係など、古典文学の語彙力の向上も図りたい。数学は、数量を文字を使って求めたり、数量の関係性を説明したりする問題や資料の活用に課題がある。このことから、数学的事象を実生活と関連付けて考える課題を与え、対話的学びや表現活動を取り入れた授業で、活用力の向上を図りたい。また、数学の無解答が多く、学力分布の二極化が見られる。問題に取り組むときに、1番からではなく自分の得意分野から始めるなどの問題への向かい方指導や習熟度別授業などで、数学を苦手とする生徒を減らす指導を行いたい。理科では、音や力の分野で解答率が低い。数学同様、数量を取り扱う単元であるので、数学との連携を図りながら、粘り強く問題に取り組むよう指導したい。英語は、英作文力の向上を図るために、エッセイノートや表現活動を多く取り入れ、書く・話す力の向上を図りたい。対話的な学びもコロナ禍で工夫は必要であるが、学習への意欲や向上心へつながる活動であるので、各教科工夫をしながら取り入れたい。
	社会	中世の日本の大まかな流れを理解し、勘合貿易についての理解をまとめることに課題がある。	
	数学	度数分布表を読み取り、平均値を求めることに課題がある。	
	理科	オシロスコープの観察結果を正しく読み取ること課題がある。	
	英語	自分のおすすめの場所について、3文以上の英作文で説明することに課題がある。	
	学習状況	授業で学習した内容をより詳しく調べてみたいと思う生徒が少なく、学習への意欲や向上心に課題がある。	

【保護者・学区の方へのお願い】

毎日規則正しいリズムで生活している生徒が多く、保護者の皆様には感謝申し上げます。また、メディアの利用に関してもコントロールできている生徒も多いです。しかし、「夢や目標をもっている」「授業で学習したことは、将来、社会に出たとき役に立つ」に対して否定的な考えの生徒がやや多く、今やっていることを、どう自分や世の中に役立てていくかという活用力や未来計画力の向上が必要と考えます。保護者・学区の皆様は生徒にとって最も身近な「自分の未来像」です。思春期との関わり方は難しい時期かもしれませんが、ご家庭でも将来の話や保護者の皆様の子どもの頃の話をしていただけると具体的な想像ができると考えます。どうぞよろしくお願いいたします。